

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	知能機械工学実験B		
英文授業科目名	Mechanical Engineering and Intelligent Systems Laboratory, Advanced B		
開講年度	2004年度	開講年次	3年次
開講学期	6学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門共通科目-必修科目		
開講学科・専攻	知能機械工学科		
担当教官名	M全教官, 仙北谷技官		
居室	幹事(小泉 東4?6 2 1室, 朴 東4?8 2 9室)		

公開E-Mail	授業関連Webページ
koizumi@mce.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
実験の手法、実験データの処理方法、現象の解析方法、実験報告書の書き方、などの基礎的事項を習得する。また、将来、技術者あるいは研究者として実験を計画し、実行するに必要な思考力、計画性ならびに現象の解析力を養成する。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
2年次および3年前期までの専門必修科目

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>

<b>【教科書等】</b>
教科書： 知能機械基礎実験 知能機械工学実験 (電気通信大学 知能機械工学科 発行)

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

機械工学における、「材料・材料力学」、「設計・生産」、「熱・流体」、「ロボット・制御」、「回路・メカトロ・センシング」の5分野について、各2テーマずつ計10テーマを、それぞれ2週間にわたり通年実験を行う。この10テーマに分かれた実験のうち、5学期の「知能機械工学実験A」で受講していない残りの5テーマを、6学期の「知能機械工学実験B」で受講する。各テーマとも実験終了後、その結果・考察をまとめたレポートを提出する。提出内容の講評を受けた後、受理されればテーマの履修は終える。再レポートの場合、受理されるまで指摘箇所の手直しを行う。今年度の具体的なテーマを以下に示す。(1) 応力・ひずみ測定(2) 応力解析(3) 歯車の解析と歯切り(4) CAM(5) 熱流体現象の数値シミュレーション(6) 風洞実験(7) 制御の基礎(8) 移動ロボットの姿勢および走行制御(9) センシング(10) メカトロニクスの基礎 実験は、各テーマごとに次の手順で進められる。(1) 決められた実験日、時間に受講する。(2) 内容のあるレポートを作成する。(3) 期限内にレポートを提出する。(4) レポートの講評を受ける。ただし、講評の結果、再提出(再レポート)となることがある。(5) 講評の結果、レポートが受理された時点で実験を完了する。/// 厳守すべき期限 /// (1) 実験日、開始時間(2) レポート提出期限(実験終了日を含めた7日後の午後5時)(3) 再レポート提出期限(実験終了日を含めた14日後の午後5時) 実験担当者が、提出期限を別途定めた場合はこの限りではない。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：下記四つの成績評価項目について、総合的に評価する。(1) 遅刻を含めた出席状況(2) 実験態度(3) レポートの提出期限が守られているか(4) レポートの内容 なお、遅刻・レポートの提出遅れは、減点の対象となる。(b) 評価基準全実験への出席とレポートの提出をもって、実験終了の最低基準(必要条件)とする。ただし、上記項目による総合点が、最低基準点に達しない場合は不合格となる。なお、再履修者に対する成績評価の基準点は異なる。\*\*\* 秀評価について \*\*\* 今年度より、学科で定めた基準点以上の成績優秀者には、「秀」評価を行う。なお、「再履修生」は、秀評価の対象外である。ただし、休学などではじめて実験を受ける者は、秀評価の対象となる。

### 【オフィスアワー：授業相談】

実験内容等については、相談日時を含めて各実験担当者に相談する。実験全般についての問い合わせは、小泉まで。(621室、Phone & Fax: 0424-43-5395、E-mail: koizumi@mce.uec.ac.jp)

【学生へのメッセージ】

実験・レポート作成上の注意(1) 危険防止実験では思わぬ事故が発生することがあるので、担当者が説明する前に機械や測定器などを勝手に操作してはならない。実験中も、怪我をしないように危険防止に十分注意を払うよう心がけること。とくに、機械の始動・停止の際には注意を払い、共同実験者に合図してから行うこと。(2) 欠席者実験当日、病気等のためやむを得ず欠席する場合、あるいは欠席した場合は、速やかに実験担当者に届出て担当者の指示を仰ぐこと。(3) レポートについて・レポートの作成には、最大限の努力をすること。・原理・方法などについては、テキストの内容をまとめることに加え、他の文献などで独自に勉強した内容を盛り込むことが望ましい。・考察については、技術報告書であることを十分意識し、実験結果から得られた知見、問題点、改善すべき点などを工学的見地から記述する。・考察または検討のないレポートは受理できない。他人のレポートを写したもの、内容のないものは受理できない。レポートは、次の事項についてまとめるとよい。・実験の目的・実験の理論や測定原理、実験条件、実験装置や測定器の説明・実験方法・実験結果・考察・感想、所見など・参考文献

【その他】

実験幹事小泉：総括幹事（東4-621室、Phone: 0424-43-5395、E-mail: koizumi@mce.uec.ac.jp）朴：担当幹事（東4-829室、Phone: 0424-43-5402、E-mail: piao@mce.uec.ac.jp）